

海津木苑運営委員会（平成 30 年度 10 月期）

会議録

1. 日 時： 平成 30 年 10 月 23 日（火） 15 時 25 分 開会
2. 場 所： 古賀市海津木苑 会議室

3. 出席委員（14 名）

委員長	結城 弘明	副委員長	清原 留夫
委員	智原 和子	委員	簗原 弘二
委員	田中 英輔	委員	古賀 誠視
委員	清原 秀則	委員	清原 透
委員	三好 収	委員	安武 正一
委員	森 里子	委員	横田 昌宏
委員	松尾 佳久	委員	足立 英樹

4. 欠席委員（なし）

5. 傍聴者数（なし）

6. 事務局出席職員職氏名

古賀市長	中村 隆象	市民部長	清水 万里子
環境課長	智原 英樹	海津木苑長	吉田 義昭
海津木苑係長	国本 勝喜	海津木苑職員	三好 英明

概要

15 : 25 開会

1. 古賀市あいさつ
2. 委員長あいさつ
3. 協議事項及び報告

- 1) 会議録について（事務局より説明）

- (1) 8 月期運営委員会会議録

資料.1

- (2) 10 月期運営委員会会議録署名（結城委員長・古賀委員）

【質疑・意見】 なし

- 2) 海津木苑運営に関する実施状況について（事務局より説明）

- ・ 平成 30 年 8 月及び平成 30 年 9 月の処理状況について

資料.2

[質疑]

委員 : 返送汚泥ポンプのバルブ交換を行い、その間薬品を使用していないと思うが、薬品の使用状況を見ると変化がないが説明をいただきたい。

[答弁]

海津木苑 苑長 : 8月30日に沈殿槽の水抜きを開始し、8月31日に返送汚泥ポンプのバルブ交換を行い、その作業期間中は薬品の使用はしていない。8月1日から返送汚泥ポンプバルブ交換作業開始までの期間で、流入水の色度が高く、数値を下げるために薬品を使用したため、薬品の増加となった。

[質疑]

委員 : 水質検査結果はほとんど変化がなく、返送汚泥ポンプバルブ交換を行っているが、水質検査結果の数値はいつ頃のものなのか。

[答弁]

海津木苑 苑長 : 放流水水質検査結果は、毎月1回、放流水を採取し、検査機関に提出した検査結果である。返送汚泥ポンプバルブ交換を行った時期ではない。

[質疑]

委員 : 9月の搬入量の合計が、849.1kl/月に対して、清掃工場への汚泥とし渣の搬出量が13.65 t/月となっている。4月と比べると搬入量の合計が、894.2 kl/月とあまり変わらないが、清掃工場への汚泥とし渣の搬出量が46.0 t/月となっており、9月の搬出量と4月の搬出量で1/3程度になっているが、汚泥の水分量の違いなのか。説明をいただきたい。

[答弁]

海津木苑 苑長 : 4月の搬入量の合計が894.2 kl/月、9月の搬入量の合計が、849.1kl/月となっており、4月の汚泥搬出量が、44.42 t/月、9月の搬出量が13.12 t/月の搬出量の違いは、処理槽のMLSS濃度を4月から夏場に向け下げていく必要があり、汚泥処理をした。仮にMLSS濃度10,000ppmのものを8,000ppmまで下げた場合、2,000ppm分の汚泥を引き抜き、汚泥脱水機にかけて処理をする必要がある。汚泥脱水機にかけたものを脱水汚泥として、清掃工場に搬出している。濃度を下げるために4月に搬出汚泥量が多くなっている。

[質疑]

委員 : 8月と比べると、8月は37.86 t/月となっているが、月々を比べると搬出量の差がある。だから、8月分の脱水汚泥量と9月の脱水汚泥量の差が水分量の違いなのかと思った。

【答弁】

海津木苑 苑長 : 脱水汚泥の水分量は 80%前後となっており、処理槽内の MLSS 濃度を上げたり、下げたりするために、汚泥脱水機の運転をしている。汚泥脱水機の運転は、これから冬に向けて処理槽内の MLSS 濃度を上げるため、汚泥脱水機の運転回数は減っていく。

3) 平成 30 年度第 2 回臭気測定及び騒音・振動測定について (事務局より説明)

- ・実施日 11 月 1 日 (木) 10 : 00～
- 予備日 11 月 7 日 (水) 10 : 00～
- ・予定立会者 : (清原留夫委員) (田中委員)

【質疑・意見】 なし

4) 海津木苑施設等啓発について 資料.3 (事務局より説明)

【質疑】

副委員長 : 啓発について、内容を詳しく伺いたい。大半が小学 4 年の施設見学だが、その他に福岡県人権同和政策課など研修に来られているが、その辺の研修内容と研修を受けて受講生がどのように思われたのかお聞きしたい。

【答弁】

海津木苑 係長 : 大人の啓発については、海津木苑の「施設の撤去・移転問題」と「排育」のことを啓発している。人権教育指導者養成連続講座についてのご意見ご感想紹介させていただく。

○施設ができるまでの経緯、その過程での偏見との闘いなど、大変な思いをされたことがわかりました。

○偏見による差別にきづき、受け入れ、なくそうとしていくための行動、古賀市の取組をどう学校現場へ生かしていけるか考えていきたいと思います。

○研修の中で排育の話がとても興味深かった。学校でトイレに行きにくい生徒が多くいると思うと、その子たちの思いに寄り添えるような声かけをしていきたいと思った。

○映像の中で啓蒙という言葉があったのが気になりました。啓発でいいかと思いました。

教育庁教育事務所人権・同和教育室長定例会のご意見ご感想紹介させていただきます。

○環境と人権にかかわる課題を市が責任をもって関係者と協議しながら、素晴らしい取組になっていると 感心しました。

○排育の取組は子どもの五感に働きかけるもので人権同和教育の推進に寄与するものと思います。

○本施設と部落問題の歴史的背景とのつながりの中での位置づけがとてもよく理解できました。また、市民や子どもたちに対する教育機関でもあると強く感じました。以上の意見、感想をいただいている。

5) 次期し尿処理施設について

(事務局より説明)

[質疑]

副委員長 : 次期し尿処理施設建設に向けての説明は理解した。中村市長が1月に地元区に次期し尿処理建設をお願いに来られ、この運営委員会でも協議があったかと思う。12月22日に、中村市長は退任されるが、中村市長の任期中に地元区との協定なり、合意を得られましたという報告が、この10月期運営委員会で報告が望ましいと思っていた。12月期運営委員会での報告がタイムリミットではないかと思うが、進捗状況をお聞きしたい。

[答弁]

市民部長 : 副委員長には、様々なご心配お掛けしたが、現時点では合意に至って、合意書の書面の内容もほぼ合意を取れた状況である。あとは、正式に合意書の調印式という形を取ればということで、日程を調整中である。

[報告]

委員 : 合意書の件については8月期運営委員会でも、大変ご心配をお掛けした。古賀市との協議を進めて、地元4者の合意書について、古賀市の回答を9月7日受け取った。合意書の内容について、さらに協議を行う必要があり、協議を進めてきた。現在は最終確認中である。市民部長から報告があったように、合意書の内容については、お互いに合意は取れている。調印式は来週あたりというところで、日程調整中である。

4. その他

・返送汚泥ポンプバルブ交換について(報告)

(事務局より説明)

[質疑・意見] なし

16:10 閉会

※ 次回の運営委員会は、12月を予定している。

以上

この会議録が正確であることを証明するため会議録署名人次に署名捺印する。

平成 30 年 月 日

委員長

印

委員長の指名する
出席委員

印